

Fグループ会報

No. 11
フェリス女学院短期大学
音楽科
Fグループ

今回の講演で私がやりたいことは、まずモーツァルトを弾く場合に、主にそのイメージをどうやってつかむかについてお話をし次にピアノ曲を中心に実際に弾いていく場合の手掛りを探っていけたらと思っています。

私は職業柄いろんな人とお付き合いをする機会が多いのですが、一般的に云って外人と付き合った場合に音楽をやっていくことが非常に楽なのです。どのレベルの人であっても自分のやりたいことが決まっていれば最初の音からこの音はどちらへ向うかが何となくわかる。何をやりたいのかがはっきりしてついていきやすいわけです。それに対して日本人の場合音の出た方向・性格がわからないということが時々あるのです。そうすると結局二人で手探りになってしまいます。音を出す前にこれから自分が何をしようかというイメージを、はっきりと持つことという作業が、日本人に一番足りないような気がします。

——古い楽器について——

さてまず音楽を演奏する上で切り離せないものとして楽器の問題があります。或る作曲家の作品を理解するには、その作曲家が実際に耳にしていたと思われる

当時の楽器のひびきを或程度知るということは、大きな助けになるはずだと思います。ピアノに限りませんが、できたての楽器というのはいろいろと不備な点があり、それなりに種々の制約があったわけで、それが逆に音楽のたまたまいがかちりやと決めていました。我々は今何でもできる楽器を手に入れているものですか

の差を文献で調べてみるといったような勉強が我々には始めから長けてしまっている。それが例えば、古い楽器をピアノで弾く場合にいろいろしたばたしななければならない原因だろうと思うのです。

本来楽器というものは自分の手で弾いてみなければわからないものですが、残念なことにそれが不可能です。今回は

……モーツァルトについて…… (その1)



小林 道夫

昭和56年10月20、27日

音楽科同窓会

研修会での講演にて

… 於イギリス館 …

ら、かえってそれがわからなくなってしまう。ですからもう一度古い楽器に立返ってみると意外なことを発見するわけです。ドイツの学校のピアノ科では歴史的鍵盤楽器のクラスが必修になっていて、実際に古い楽器を手にしてそのイメージをつかめるようになっていきます。そういった楽器をさわってみてその様子

いくつかのレコードを聴いてその比較を試してみたいと思います。

最初に1787年、ウィーンでつくられたアントン・ワルターというモーツァルトが一番気に入って使っていたオリジナルのピアノで K330 のソナタ一楽章を聴いて頂きます。



ウィーンに引越してから彼の円熟した作品をほとんどこのワルターで作曲したようです。

その前に彼が使っていたのはアウグスブルクのシュタインというピアノです。この楽器はワルターと並行して製造されていたようですが少し性格が違っています。ではこのシュタインのオリジナルで弾いた K301 のヴィオリンソナタの一楽章を聴いて下さい。



次にこのシュタインを現代で克明にコピーしたピアノで弾くとどうなるかを聴いてみます。聴いて頂くとわかりますが徹底的に弦楽器という感じがします。曲は K397、二短調のファンタジーで、演奏者はヨース・ヴァン・インマーゼールです。この人のレコードのジャケットに現代のピアノでモーツァルトを弾くと音域的に上にも下にも余ってしまってスケールが小さく感じがちだが、実際彼は当時のピアノの性能を音域的にも聞かずに使った人なのであるというように書いてありますが、これは我々のように広い音域の鍵盤をみながら人間にとっては興味ある話だと思います。



モーツァルトの時代は、丁度ピアノが登場してチェンバロを追い落としはじめ、次第に発達していった頃で、楽器もメーカーによって非常に性格が違います。それからメーカーがおもしろがってか、いろんな機械装置を付けたりもしています。例えば、ミュンヘンのドイツ博物館の楽器コレクションの中にキリン・ピアノというのがあり、音の実例レコード

にその音が録音されています。約1830年頃つくられたようですが、グランドをそのまま立てにしたような形のピアノで、ペダルが6本有り、トルコ風音楽のためのトルコ行進曲ペダルのようなものについているんです。トロンメル(太鼓)というペダルは多分響板をそのまま叩くのだと思います。ファゴッテン・ツーク=弦に薄紙を接触させてビリビリいわせるものそれからペダルを踏むとチンと音が鳴るトライアングル。面白いのは、レコードを聴くとリズムが少しずれてしまっているのがわかります。それだけ足は不器用であるということ、普段我々が足で拍子をとるとするのはほとんど意味が無いということになるようです。ではそのピアノでモーツァルトではないのですがハイドンの「四つのコントラダンス」という曲を聴いて下さい。色々なストップペダルを使っています。



このように、当時の楽器がどうだったかということも知る程度知っておくと、イメージ作りに一役買うのではないかと思います。では次に実際の演奏に関してのお話をしましょう。

——指の訓練について——

古い楽器を弾く場合に一番気を付けなければならないことは腕の重さを利用しないということです。手首を動かさずに指のコントロールだけで弾く、指の関節を動かして鍵盤を引っこめるといった動作。これは何も古い楽器に限らず現代の鍵盤楽器の演奏の最も基本的な問題だと思います。では具体的にどういった訓練をすればそれが可能になるか、私がドイ

ツで学んだレッスンをお話ししてみたい。人間の指は一(親指)と五(小指)が引っこんでいて他の指は割に揃っています。鍵盤のどこが一番適合するかというと e と h 上に一五を置いて他の三本を黒鍵 (fis gis ais) の上にのせる。この形が一番自然なわけですが。全部の指を今云った鍵盤におき、次に何をしようかという意識を持つために置いた手を前後に滑らせるんです。鍵盤と指とのコンタクトのできた瞬間を掴ませるわけです。

そのコンタクトができた状態で5本の指全部一緒に押し下げてみると云われましたが、これはほんとうにむずかしくてなかなかできません。決してアタックをつけずに指の動きだけで弾くわけですが弱い指は完全には引き返されて不揃いになってしまいます。それだけ自分の指をコントロールできていないということですね。でもこの精神集中はとて素晴らしいので一日に1回でも2回でもやってみることをお勧めします。次に各指の訓練に入ります。まず親指 (Eの音) から次のリズムで鍵盤を押し下げます。



指の動きの出発点は決して上からではなく、鍵盤に触った状態から始まります。弾みをつけずに指の動きだけで無意識にスッと下げる。これはほんの僅かな動きなわけですが下手をすると音が鳴りません。でも大きな音を出すよりははまだ鳴らない方がいいと思います。それほどむずかしいものです。それから次の音を決して連続してついでに弾かないこと。一音

この楽器はクラヴィコードと似た感じで大変軽く華やかなピアノです。こうして聴いてみますと音楽学校の練習ピアノのような音ですが、実際にふれてみますと大変な違いです。鍵盤のサイズが全体的に小さく、非常に浅くて軽いです。アクションそのものが簡単ですので指の操作がそのまま音に出てしまいます。

楽器というのは単純である程使い方がむずかしいものです。この楽器の鍵盤の横にはチェンバロのストップのようなものがある、それを引張るとフェルトがハンマーと弦の間に入ってやわらかい音が出るようになっています。もう一つペダルのことですが、鍵盤の下に横木が二本両側から出ていて、左側の方を膝で押し上げると低音部が、右側は高音部、其中を押すとペダルが全部にかかるようになっています。膝で操作するので今のようには足音です。より小回りが効きません。ですから細かいペダリングは当然なかったでしょう。同じ和音に属するものを一つのペダルでモヤッとさせるような技巧も、極く一部を除いてありません。それからハンマーが小さく弦も今のようにならないために低音部では倍音が豊かで濁らない。そのため線がはっきりと出せるようになっています。モーツァルトは

弾いたら必ず元の状態、ゼロに戻して弾き直す。鍵盤と指とが離れるようなことがあってもいけません。四分休符のところでは今まで弾いたものがよかったかどうか反省して下さい。どの指にも云えることですが必ず三つ目の関節から其下に動かすことに注意して下さい。特に親指は他の指と違って第三関節が手首のあたりにあります。ここから動かすと親指が他の指と同じ軽さを持って弾けるようになるはずですが。先ほどのリズムで親指が弾けるようになりましたら、同じリズムで二の指 (fis) 三の指 (gis) 四の指 (ais) と一本ずつ訓練していき下さい。五の指 (h) は少々やっかいです。少し手首を内側にひねってやると立って弾きやすくなると思います。四と五の指というのはだいたいさびついているだけなので毎日何分かつやってみて少しずつそのさびが落ちていくはずですが。この練習は極めて初歩的ですがつまらない練習のように思われますが、実は絶大な効果を持っています。馴れたらと思って毎日五分でもいいからやってみて下さいしばらくすると自分のピアノがびっくりする程変わってくると思います。

各指の訓練ができたとして次にこれをヴァリエーションしていきます。一例をあげると想像できる限りのヴァリエーションをして下さい。弾き方は先ほどと同じです。

(1)





これは基本的な動きを訓練すると同時にレガートの練習にもなります。指と指との流動感を掴みながら是非ほんとのレガートを捜して下さい。これは音と自分の気持ちとの密着度を確かめながら耳でコ

ントロールしていく他にはありません。それが五本の指にゆき渡ればあとは親指の移動だけです。それができればそのままスケールにつながり、スケールが弾けるようになればまあ何でも弾けるということになります。

親指の移動で基本的に気を付けなければいけないことは、とにかく親指が自由になっていることです。



親指でまずeの音を前のような弾き方で弾きます。そして上げて完全に元の状態に戻します。それから鍵盤上を真横にすべらせて次の鍵盤(f)の真上にもっていき真下に降す。そして又上げてゼロに戻して再び鍵盤上をすべらせてeの音を同じように弾く。そのくり返しです。これを二度(eとg)四度(eとa)と広げてやっていくわけですが、非常に大変な練習だと思います。これは親指の第三関節の骨をよく動かそうという訓練なので手首を利用せずに、このついでに振り回わたりしないで正確にやって下さい。とにかくこわばっているところをほぐす

体操だと思って下さい。この親指の移動をよく練習しますとスケールは何でもなくなります。

指をつくり変える、意識し直すということに関しては以上申し上げた練習で充分だと思えます。こうした指の訓練をしていくとモーツァルトのトリルやスケールなどが、違った響きを持ってきて段々その世界が近づいてくるような気がします。

◇この続きは次期Fグループ会報に記載致します。御期待下さい。

文責27期 鈴木みどり

Fグループ中部支部発足

支部長 峰沢 紉子 (14回)

私共、名古屋近郊在住の同窓生は、これまで、年1回の同窓会を開き、親睦を深めてまいりましたが、この度、中部支部として正式に発足することになりました。本年1月に佐藤馨学長、三宅洋一郎先生、青山三郎先生、大島君子同窓会長をお迎えして盛大に発足式を行いました。これからは、気持ちを新たに、心を一つにして、一歩一歩、着実に活動を進めてまいりたいと思っております。会員は、浜松以西、愛知はもとより、岐阜、関西、中国及び四国にまで及ぶ総勢、約170名の大世帯です。これまでも同窓生による演奏会は毎年のように行なわれておりましたが、今後は一層はば広い地域での演奏活動を期待したいところです。

この秋、短大音楽科の絶大な御協力と御好意により、発足記念演奏会を開くことになりました。

中部支部発足記念演奏会

10月6日(水) 6時半

中電ホール

主催 Fグループ中部支部

後援 フェリス短大音楽科

水本 雄三(教授)

宗 施月子(講師)

二台のピアノ

吉原 すみれ(講師)

打楽器

<曲目は未定>

母校の先生方による演奏です。どうぞ御期待下さい。

その他、来春には子供のための合同ピアノ発表会、来秋には、幼児教育に関する公開講座を予定しております。今年度より2年間活動のお手伝いをする役員を御紹介します。

- ・支部長 峰沢 紉子 (14回) ・会計書記 早川孝子 (14回) ・執行委員 岡本博子 (15回) 田口恵子、水谷のり子
- ・同窓会役員 水原元子 (8回) ・小谷 昌子 (14回)、服部幸子 (20回) 大橋多美子 (20回) 西田千寿子 (27回)

西南支部だより

支部長 田村 淑子 (8回)

西南支部では2年ぶりに、今秋ピアニスト 種田直之氏をお迎えして、公開講座を開催することになりました。長年国内、海外でははば広い演奏及び教育活動をされておられる種田直之先生の魅力

いっばいの講座になることと期待しております。

11月12日(金) 10時半より午後1時まで、豊原町、日立ファミリー・ホールにて行います。尚、ヤマハとタイアップして一般公開もする予定です。

Fグループリサイタル再開

Fグループ発足以来、多くの同窓会の演奏の場として開催されていたジョイントリサイタルですが、長い間にはいろいろと形勢を変え、一時は、短大による新人演奏会のかたちをとる等、ここ数年はFグループ主催のジョイントリサイタルは、とだえておりました。この度、ひさびさに復活することになり、5月21日県民小ホールに於て、3名の方々が演奏されました。

ソプラノ、中島恭子 (9回)

シューベルト・エレンの歌 I, II, III シュボア六つのドイツ語の歌曲 作品 103

ピアノ 大島君子

クラリネット 黒沢文博

ピアノ 谷口直子 (26回)

ブラームス 幻想曲集 作品 116

ピアノ 上野 睦 (29回)

ブラームス、ヘンデルの主題による変奏曲とフーガ 作品24

演奏をおえて

谷口 直子

4年程前になりますが、加藤登紀子さんのワソマンショーの中でとても印象に残った言葉がありました。それは『女は子供を産む時に、それまでの憂きも一緒にすごい勢いで飛び出してしまうのもう一度生まれ変わった様に、暗れ暗れとすっきりできる』という様な意味でした。

私は、ふくらんだ自分のおなかを眺めながら、そんなもんかあ~と思ったのですが、今、子供が3才、4才になって実感として、あの時の言葉がとてもよくわかるのです。年子の男の子を抱えて本当に大変な毎日でしたが、不思議と大変であればある程、私の音楽に対する情熱は深まっていき、たっぷり時間のあった学生時代よりも、ずっとなかなか自分の時間を確保してピアノを続けてくる事ができました。もちろんこうやって続けてこられたのは、回りの人たちの暖かい協力があったればこそで、この幸せがにじみ出る様な演奏ができればと願っておりました。Fグループの演奏会も終って又新たな気持ちで勉強してまいりたいと思っています。

研修会予告

講師 黒岩 英臣

日時 11月30日(火)10時~12時

場所 フェリス短大 233 教室

黒岩氏は桐朋学園大学指揮科を卒業後、約10年間修道士になられ、1976年に音楽界に復帰なさいました。都響ファミリー・コンサートにおいて輝光を浴び、以後各地のオーケストラと共演、現在は九州音楽団常任指揮者として、活躍されています。

これまでの研修会は専門的すぎるという御意見もございましたが、今回は黒岩氏の人生体験も含めた、幅広いお話が伺えるのではないかと考えております。10月中には詳しい御案内をいたしますが、御予定にいらしていただけたら幸いです。

Fグループ後援演奏会

・5月13日 新潟市音楽文化会館 6時半 大島君子、八木英子

ジョイント・リサイタル

長年、新潟で後進の指導にあたっていらっしゃる八木英子(5回)が、シューマンの謝肉祭、大島君子(3回)がシューベルトのさすらい人幻想曲を演奏。その他に連弾で、モーツァルト・シューベルト。

・5月27日 イギリス館 6時

グループハーフェン 第3回公演

相沢令子(29回)川辺晶子、坂田美子 林百合子(30回)高山慶子、平井美智代(31回)の音楽科卒の方々による、モーツァルト コシファンツウッテ第一幕の演奏。ピアノを受け持つのは、木村菜穂子(29回)小倉一美(30回)

・6月11日 県民小ホール 7時

岩崎多美子

ヴァイオリン・ソナタの夕べ

24回卒の岩崎多美子が、国立音大卒の安倍逸子をピアニストにむかえて、ベートーヴェンのスプリング ソナタ、ブラームス ソナタ第3番、ヴィタリーのシ

総会に出席して

尾山 知子 (19回)

7月4日(日)中華街の万珍楼に於いて、同窓会総会が開かれました。出席者は40名余りと少し寂しい感じでしたが、佐藤先生、中田先生、そして御活躍中の同窓の先生方の御出席を得て、学校に関する報告の後、お料理をいただきながら在学中には何うことの出来なかつた、くだけた楽しいお話しを聞かせていただくことが出来ました。10年前の先生と生徒という堅苦しさを感じさせてくださるひと時を過ごしました。

同窓会というと、とかく形式ばった集まりに思われ、遠慮なさる方が多いように見受けられますが、先生方を交えて同窓の皆様がフェリス音楽科の卒業生という良い意味での誇りを持って、和気あいあいと接することの出来る集まり、との印象を受けました。卒業生の皆様全員にも、次回のお席を是非お勧めしたい気持ちでいっぱいです。

ヤコソを。他にピアノ ソロでシューマン アベック変奏曲

・6月12日 第一生命ホール 7時

二宮 純子 ピアノリサイタル

一昨年に続く二宮純子(24回)の二度目のリサイタル。今回は、フランク、ショパンのソナタ第3番、ドビュッシー前奏曲集第2巻全曲のプロで。

・7月9日 県民小ホール 6時半

ジョイント リサイタル

岩井周子、加藤雅子(29回)のピアノ、犬塚英子、細木朝子(30回)のピアノ、田中敏江、三浦成子(30回)の声楽、三森祐(30回)のオルガン、太美奈子(31回)の声楽、市川純子(31回)のピアノによる、大変にぎやかで多彩な演奏会。曲目は、ショパン、リスト、シューベルト、ブラームス別宮貞雄等。

・10月7日 ヤクルトホール 6時半

成瀬春代 ポピュラーコンサート

特別出演 高木 東六

伴奏 北野 実 カルテット

曲目 水色のワルツ、花に寄せて 愛の讃歌、マイウェイ他

(以上敬称略)

昭和56年度会計報告

(57年3月末日現在)

収	入	支	出
前年度繰越金	6,117,806	同窓会総会費用(三善先生)	417,257
56年度終身会費	1,090,000	研修会費用(小林先生)	313,310
総会当日券代(三善先生)	10,600	慶弔費	151,190
白菊会より	200,000	中部支部関係費用	147,700
研修会券代(小林先生)	169,000	九州支部へ	50,000
名簿代	438,493	支部への出張費	63,040
銀行普通預金利息	26,201	音楽科事務所へ	50,000
		会議費用	88,600
		事務用品通信費	18,070
合計	8,142,100	合計	1,299,167
		次年度繰越金	6,842,933